

# 情報ワイド



©Julian Mommert



「TRANSVERSE ORIENTATION」の振付師、パイオアヌー。京で来月上演

独創的な舞台で世界的に注目されるギリシャの振付師、ディミトリス・パイオアヌーの最新作「TRANSVERSE ORIENTATION」が8月10、11日の2日間、京都市左区のロームシアター京都サウスホールで上演される。京都新聞後援。日本では埼玉と京都の2カ所だけだ。パイオアヌー作品の魅力は、アートジャーナリスト小崎哲哉さんとダンサー・振付師の平原慎太郎さんに聞いた。

（北村哲夫）

パイオアヌーは1964年ギリシャ・アテネ生まれ。アテネ美術学校で学んで、画家や漫画家として活躍した後、ダンスを学んで独自の舞台を躍進し、2004年のアテネ五輪開閉式での演出を手がけた。ドイツの世界のダンサーで振付師のビチ・パウシユが亡くなった後、彼女が率いたラッパタル舞踏団で初のゲスト振付師として新作を発表し、話題を集めた。

約3年ぶりの来日となる今回、披露する「TRANSVERSE ORIENTATION」は当初、20年のアウニオン国際演劇祭のオープニングに予定されていたが、コロナ禍で中止となり、21年に初演された。タイトルは、蛾などの昆虫が、月などの遠方の光源に対して一定の角度を保ちながら飛ぶ感覚反応のことという。

作品には、点滅する光、影、雄牛、スーツ姿の男性たち、奇妙な人形、女神や聖母のような女性が現れ、絵画やギリシャ神話を連想させるような場面が次々と展開され、鮮烈な印象とユーモアにあふれた舞台になっている。

## ダンス!? 演劇!? 独創の舞台



©加藤甫

パイオアヌーは世界でトップの舞台演出家。日本で見られると巨体がすごい。彼の舞台はダンスだけでは語れない。劇的で幻想的な「出来事」と表現した方がいい。舞台を見るよりも美術館に個展を見に行く感覚の方が近い。

魅力の一つは、フィジカルに対する信頼。実にさまざまな身体表現を見せてくれる。特に今回の作品ではこれまでに試みてきた手法を濃縮して表現しているような印象がある。

舞台上で絵画を再現するような手法はあるが、彼の表現は余計なものがなく、卓越している。彼の舞台を見てみると、こういう絵、こういう写真を見たことがある。「わかる、わかる」という感覚になる。自分の知っている世界を感じることができる。

2019年の来日時、あいさつにうかがったことがある。言葉や態度の端々に出演者たちが



アートジャーナリスト 小崎哲哉さん

## 現代の「活人画」

現代の「活人画」

彼は画家からスタートしており、美術史の教養が深い。絵画はもともと漫画や映画、さまざまな映像、画像のイメージを作品に引用する。前作ではポッチェリやレンブラントの名画を再現したかと思えば月探査の宇宙服を取り上げて、人類の歴史を表現した。

今回は、雄牛や美の女神などをイメージ豊かな活人画として見せており、ダンスに馴染みがない人でも楽しめる要素が充分にある。あらゆるダンスは見ていく人にシンパシーを感じさせるものだが、パイオアヌーはそれとは違い、アートを見るような見方が正しいのではないかと。それは作品に登場するものを自分の連想と結びつけることだ。雄牛が

## 劇的で幻想的

ダンサー・振付師 平原慎太郎さん

劇的で幻想的

対する愛情、ユーモアを感じた。卓越した才能人間としての基本的な優しさの両方を持ち合わせていて、それが魅力ある作品に反映されているかと思う。

彼の作品には時間に揺らぎがある。例えば、舞台上に横たわった人形にかけられた布をめくると、一つ一つの動作をゆっくりと時間をかけてみせる。そうすることで、体感する時間が変わる。1分が10分に、10分が1分に感じられるような感覚を味わうこともできる。

パイオアヌーの出身地であるギリシャは哲学や芸術の発祥の地であり、一見分りづらい、こうした芸術が生まれ、受け入れられているという、この豊かな状況が素晴らしいと思う。彼の舞台を見て、意味は分からなくとも、感じるころがあつて、あれはなんだ、なんだと考えるのも豊かなことだ。

コロナ禍の2年間は舞台芸術にとって厳しい時代だったが、パイオアヌーが見せてくれる幻想的な夢、イメージは自分の中にある世界でもある。その魔法をかけてくれる場所を楽しんでほしい。

ひろはら・しんたろう 1981年北海道生まれ。ダンサー、振付師。ダンスカンパニー「Organic Works」を主宰し、2021年の東京オリンピックで開閉式での振付ディレクターを担当した。

ディミトリス・パイオアヌー  
『TRANSVERSE ORIENTATION』  
開催日時 8月10日午後7時、11日午後2時  
※11日は上演終了後、パイオアヌーによるアフタートーク（日英通訳あり）  
会場 ロームシアター京都サウスホール（京都市左区岡崎最勝寺町）  
チケット 全席指定 1階席6千円、2階席5千円、ユース（25歳以下）3千円/18歳以下千円 ※未就学児入場不可  
問い合わせ ロームシアター京都チケットカウンター075(746)3201  
主催 ロームシアター京都、京都市  
後援 駐日ギリシャ大使館、京都新聞